

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
障害者スポーツ演習 Adapted Sport therapy		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(選択 ・ 資格課程必修 (初級障害者スポーツ指導員))	障害者スポーツ論 (前期科目) 履修者である
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
斉藤 智子	月曜日14：30～ 17:40	授業内で指示する		授業中に指示します
授業の概要				
車椅子の操作練習をバスケットボールを通して練習したり、非利き手でのトレーニングとして左手（右手）での卓球やバドミントンを行う。また閉眼でのSTT（盲人卓球）やゴールボールを行い、耳で感じるスポーツを体験する。これらを体験することで障害を持って生活する困難さを感じると共に、障害者スポーツの世界を知り、さらに「交流」を通して、障害を越えた”生き甲斐”を求めてスポーツに取り組んでいる人々への理解を深める機会とする。				
授業の目標				
①障害者がスポーツを行う困難さを体験することにより、自らがより良い指導方法を実践できるようにする。 ②障害者がスポーツを行うことによって、新たな生活への喜びになることを対象者に伝えることができるようにする。				
授業の方法				
校庭・体育館やプール等による実習。および障害者との交流を体育館で行う。				
学習の成果（学習成果）				
①障害者スポーツの知識の会得して、介助法や手助けを自ら率先して行うことができる。 ②障害者との交流により、困難さや乗り越える精神面に触れることで、障害者への更なる理解を深めその支援にあたることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	障害者の理解とスポーツ①障害者の苦労を分かろう：車いすで屋内・屋外を移動してみる			
第2回目	障害者の理解とスポーツ②障害者の苦労を分かろう：車いすで素早く動いたり、回転したり、段差を越える			
第3回目	障害者の理解とスポーツ③障害者の能力を上げるには：車いすでボール拾いやシュート、ドリブルにしよう			
第4回目	障害者の理解とスポーツ④障害者の能力を上げるには：非利き手でスポーツしてみよう			
第5回目	障害者の理解とスポーツ⑤（水中運動）浮力や水圧を利用して自由に浮く・泳ぐ（場所：佐野日本大学高校室内温水プール）			
第6回目	障害者の理解とスポーツ⑥（水中運動）片麻痺・下肢麻痺・上肢麻痺・盲目になって泳いでみよう（場所：佐野日本大学高校室内温水プール）			

第7回目	障害者の理解とスポーツ⑦障害者の体力向上：車いすで出来るスポーツをやろう「ロード」「バスケ」「卓球」	
第8回目	障害者の理解とスポーツ⑧障害者の体力向上：車いすで出来るスポーツをやろう「バドミントン」「テニス」	
第9回目	障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）①運動機能をフル活用するスポーツ「シットバレー」「STT」	
第10回目	障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）②運動機能をフル活用するスポーツ「バドバレー」「ゴールボール」	
第11回目	障害者との交流（実技）①「外部講師との交流①」「脊髄損傷」車いすの操作	
第12回目	障害者との交流（実技）②「外部講師との交流②」WCバスケ、改造車移乗見学	
第13回目	障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）③障害者スポーツをさらにルールに沿ってやってみよう「卓球」「バドミントン」	
第14回目	発表会：障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）⑤自分で障害者スポーツを考え、実践してみよう	
第15回目	障害に応じたスポーツの工夫・実施（実技）④発表してみて	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	授業に対して積極的に興味を持って参加し、用具の準備や掃除・片づけなどを行えるか？
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	障がい者スポーツを色々な手具を活用して工夫し、ルールを作成して皆に伝えて実施できるか？
その他		
教科書と参考図書		
教科書：「障害者スポーツ指導教本 初級・中級」（財）日本障害者スポーツ協会編 授業担当者より適宜指示または資料を配布する		
履修上の留意点・ルール		
初級障害者スポーツ指導員資格取得必須科目。意欲・積極性・人間性重視。		